

UIFA JAPON NEWSLETTER



No.71 + 72 July 25, 2007

■主な内容

- ・UIFA JAPON 第15回通常総会 報告
- ・総会記念講演会：菊竹清訓先生「女性と建築文化」を聞いて
- ・ルーマニア豆知識
- ・UIFA JAPON 会員「私の仕事」：会員たちの仕事・活動・生活 15周年記念企画
- ・第40回海外交流の会：「子供にとっての住まい・まちづくり
ードイツ・ドレスデンの取り組みからー」
- ・訃報：川崎衿子さん～千の風になって～
- ・会員の本「都市は誰のものか」
- ・法末「あぜ道茶会」報告
- ・役員会報告



UIFA JAPON 総会：菊竹清訓御夫妻と小川会長

■ UIFA JAPON 第15回通常総会

2007年6月23日（土）13時から、女性と仕事の未来館第2セミナー室において第15回総会が開催された。副会長正宗量子さんの司会により、開会宣言の後、会員数91名中23名が出席し委任状の31通と合わせ過半数の46名を上回るため総会は成立すると説明された。

次に小川信子会長から今年でUIFAの活動が15年目を迎え、ルーマニア世界大会の年でもあることから、何が世界に向けて働きかけできるか考えたいとUIFAの可能性を期待する挨拶があり、その後議事に入った。

安武敦子総務担当理事が書記に、吉田あこ事業委員、船津貴子会員が議事録署名人として選任され、第1号議案として2006年度活動報告を山田規矩子事業担当理事から、それに伴う一般会計と特別会計の収支報告が森田美紀、飯田とわ会計担当役員から説明された。東由美子、栗山楊子会計監査役による監査報告が行なわれ、満場の拍手をもって承認された。

第2号議案は、2007年度活動計画案をやはり山田理事から、一般会計と特別会計の収支予算案について森田、飯田両理事から説明があり、承認された。

これまでUIFAの活動に尽力いただいた川崎衿子さんが今年3月にご逝去されたため、ご冥福をお祈りすると共に、欠員となった総務担当理事に山本佳世子さんが選任された。（須永）

■ UIFA Japon 2007 General Meeting

The 15th annual General Meeting of UIFA Japon was held at the Center for the Advancement of Working Women in Tokyo on June 23, 2007, with the attendance of 23 members and 31 proxies. The president, Nobuko Ogawa, paid tribute to the 15th year of the organization and spoke about her hopes for promoting the Japan chapter's activities overseas, as the 15th UIFA International Meeting will be held in October 2007 in Romania.

Kazuko Masamune acted as the master of ceremonies, Ako Yoshida and Takako Funatsu were signatories and Atsuko Yasutake was the secretary. Kikuko Yamada reported on our activities in 2006 and Miki Morita and Towa Iida reported on finances. Yumiko Higashi and Yoko Kuriyama reported on their financial audit, and all was approved. The 2007 activity schedule and the income and expenditure budget were approved as well. Kayoko Yamamoto was designated as a general affairs committee member, replacing the late Eriko Kawasaki, a contributor to UIFA Japon who passed away this past March. We prayed that her soul may rest in peace.(A.T.)

海外交流の会のお知らせ

8月、9月と2ヶ月連続でルーマニアをテーマに海外交流の会を開催します。世界大会に参加される方は勿論、残念ながら今回は参加できないという方も少しでもルーマニアを身近に感じてみませんか。詳細は後日案内状が届きます。

■ 第41回 8月25日（土）14:00～16:00 「ドナウ河とルーマニアー歴史と民族の多様性ー」

講師：小松義夫氏（写真家）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 第2ミーティングルーム

■ 第42回 9月15日（土）14:00～16:00 「ルーマニアの建築ーその伝統的手法と歴史的背景ー」

講師：太田邦夫氏

会場：女性と仕事の未来館 第2セミナー室

■ 総会記念講演会：菊竹清訓先生
「女性と建築文化」を聞いて

山本佳世子

2007年度総会の記念講演で講師を担当された、菊竹清訓先生は、世界でも有数の建築家である。また、これまでに、自邸「スカイハウス」、出雲大社庁の舎、江戸東京博物館のような建築物だけではなく、沖縄海洋博覧会「アクアポリス」空間プロデューサー、ならシルクロード博のハードプロデューサー、長野オリンピック空間構成監督、愛知万博マスタープランおよびグローバルループなど、空間設計を数多く手がけていらっしゃった。

ご講演の主な内容は、更新住宅、搭状都市、海上都市、樹状住居、ペルーの国際コンペ、アマゾン熱帯研究所であり、私達にとって身近な住居から、都市づくり、住宅開発、人工土地での建築物などたいへん多岐にわたっていた。私が特に強い関心を持ったテーマは樹状住居に関するものであり、菊竹先生は、20～25戸の4～5階の集合住宅で、中央に広場を整備し、子供の遊び場を確保する住宅計画についてお話しされた。このような集合住宅では、団地内でコミュニティを作ることができるような工夫をしているとのことであるが、わが国ではまだ実現されていないとかがって、たいへん残念であった。近年は、子供の視点からのまちづくりや、子供の安全な遊び場の確保が重要であるといわれている。さらに、子供が巻き込まれる犯罪が増加した日本の都市部では、菊竹先生のお考えに基づいて、コミュニティの人々の目が届くところに遊び場を整備することは必要不可欠であろう。

また、ご講演では、菊竹先生のご活動を通して、思っていたらっしゃることを個別のトピックごとにお話しいただいた。特に大阪万博についてのお話では、国家規模の壮大なイベントが開催されている舞台裏で、様々な人間の葛藤や欲求があったことがわかり、参加者の驚きもひとしおだった。これに対して、ペルーの国際コンペでは、日本型の開放感溢れる住宅を提案されたとのことで、日本の伝統的な建築文化の良い点を私達に再認識させていただいた。また、アマゾン熱帯研究所については、アマゾンの熱帯雨林の中の人工土地に建設された研究所のお話をされたが、合わせて日本の米作りの大切さについても触れられた。菊竹先生によると、日本米の遺伝子はカリフォルニアやアジアなどに流出しており、アマゾンから新しい遺伝子を取り入れた新しい日本米を作る必要があるということであった。

ご講演後には、菊竹先生と奥様にもご参加いただき、懇親会が開催された。そこでは、UIFA JAPONの会員から、菊竹先生に様々なご質問があり、活発な議論が行われた。また、会員からは、菊竹先生の今後のご活動への期待も寄せられた。

このように、菊竹先生のご講演では、これまでのご研究やお仕事についてのお話だけではなく、これらに対するご自分のお考えや思い出についてもお話ししていただいた。今後は、このような点について、建築裏話として、ご講演いただくだけではなく、出版物としてご執筆いただくことで、広く一般社会で建築文化についての理解が進むのではないだろうか。

Commemorative Lecture by Kiyonori Kikutake
Women and Architectural Culture

Kayoko YAMAMOTO

World-famous architect Dr. Kiyonori Kikutake was the speaker for this year's commemorative lecture. Among his best known



当日のレジメから

necessary to plan multifamily housing of 20-25 on four or five floors, with open play spaces for children in the center.

Though he talked about the devices that make a community in such a multifamily housing, unfortunately his housing plans have not yet been realized anywhere in Japan. In recent years, it has become more important to incorporate the viewpoint of children into community designs and to consider the security of play areas. Moreover, the number of urban crimes that children are involved in continues to increase. Considering these points, especially in Japanese urban areas, it is indispensable to create play areas where the people in the community can keep an eye on the children.

Dr. Kikutake illustrated his ideas and feelings through discussion of his many projects. By telling us behind-the-scenes stories about the Osaka World Exposition project, we heard surprising details of people's disagreements and desires for this magnificent national event. In contrast, for an international competition in Peru, he proposed Japanese traditional open-style houses and stressed the strong points of Japan's traditional architectural culture. In addition, talking about the research institute built on artificial land in the Amazon tropical rain forest, he discussed the importance of Japanese rice cultivation. Dr. Kikutake believes that the Japanese should create a new kind of Japanese rice that combines new genes from the Amazon.

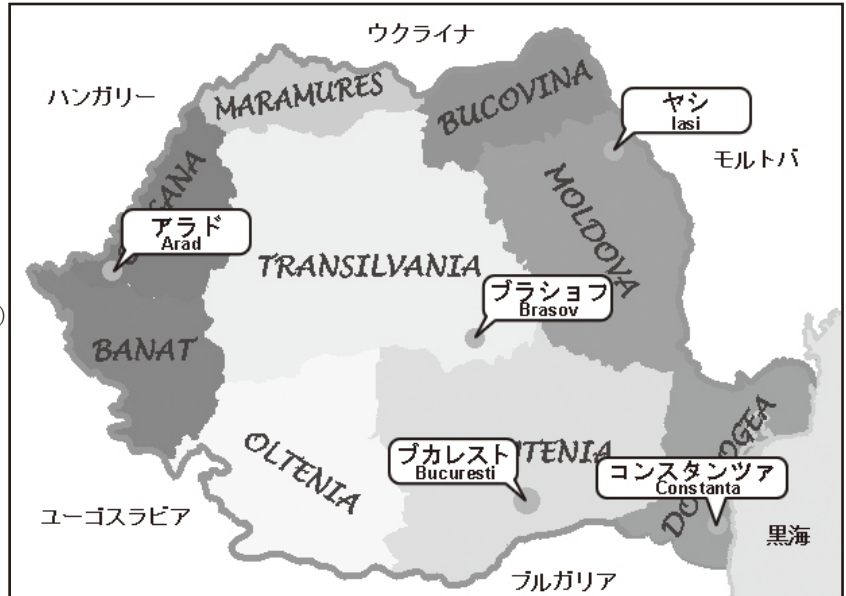
After the commemorative lecture, UIFA Japon held a social gathering in which Dr. and Mrs. Kikutake participated. He answered many questions from UIFA Japon members about his lecture, and engaged in a lively discussion. Some members also expressed their expectations for his future activities.

In the commemorative lecture, Dr. Kikutake shared not only his philosophy and his many work experiences. We hope he will someday publish these in order to help advance a more widespread understanding of architectural culture.



■ ルーマニアの基本データ

首都：ブカレスト
 面積：23.8 万平方 km (日本の本州とほぼ同じ)
 人口：2160 万人 (2005 年)
 首都：ブカレスト (人口約 200 万人)
 言語：ルーマニア語
 民族：ルーマニア人 (ラテン系民族)
 宗教：ルーマニア正教
 政体：共和制
 GDP：約 986 億ドル (2005 年)
 一人当たり GNI：3830 ドル (2005 年)



■ 略史

2 世紀、ローマ帝国によるダキア征服 3 世紀、ローマ軍撤退、14 世紀、ワラキア公国とモルドバ公国が建国される。15 世紀末頃、オスマン・トルコ帝国の宗主下に入る。1878 年、独立。1881 年、ルーマニア王国発足。1918 年トランシルバニアとの統一宣言。1947 年王制を廃止し、人民共和国樹立。1989 年政変により共産党一党独裁を廃止し、国名をルーマニアに改称。2007 年 EU 加盟。

■ ルーマニアの五大都市

首都ブカレスト Bucharest、交通の要所として発展したブラショフ Brasov (シギョシアラや世界遺産が近くにある第二の都市)、ヤシ Iasi (白ワインで有名なコトナリが近くにある文教都市)、コンスタンツァ Constanta (美と健康で有名な泥パックが出来る黒海沿岸の最大の港町)、アラド Arad (西欧とルーマニアの古い街並みが融合) が、ルーマニア観光の拠点。また、ブカレスト北西のシナヤ Sinaia は、「カルパチアの真珠」とも呼ばれる。

■ ブカレストのみどころ

第二次世界大戦前までは「東欧の小パリ」と呼ばれたブカレスト。みどころは、18～19 世紀の建物が多く残るリブスカーニ通りや、19 世紀後半から 20 世紀初頭の都市型住宅が残るフローレアスカ地区、約 300 棟の民家や木造教会を全国から集めた農村博物館、共産党時代の人民宮殿 (現・国会議事堂) (1977-) など。その他、アテネ音楽堂、ブカレスト市庁舎、ブカレスト大学、エネスク作曲家の博物館、美術館、大聖堂、スタヴロポレオス教会がよく知られている。



古都ブラショフ



モルドヴァ地方の五つの修道院

写真：ルーマニア政府観光局のちらしより

■ 世界文化遺産

ルーマニアには、ローマ帝国時代のオラシュチエ山脈のダキア人の要塞群、木造文化の中心地トランシルヴァニア地方の要塞教会群、ホレズ修道院、モルドヴァ地方の教会群、シギョシアラ歴史地区、マラムレシュ地方の木造教会群という 6 つの世界文化遺産がある。2002 年からルーマニア文化省と慶應義塾大学による共同事業として、15 世紀末にモルドヴァ地方に建設された聖堂の修復事業が行われている。詳細は、中世建築研究会へ。
<http://web.sfc.keio.ac.jp/~ikamat/moyenage/>

■ ポスト・コングレス・ツアー

中世の町並みが残るブラショフ Brasov、ニヤムツの修道院 Monasteries-Neamt、ブコヴィナ Bucovina の修道院と記念碑、パスル・プリスロプ Pasul Prislop、ビストリタ Bistrita、シビウ Sibiu の野外博物館、クルテア・デアアルジェシ Curtea de Arges 他多数を訪問予定。

以下の資料をもとに構成しました。(田中)
 外務省ホームページ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/romania/>
 ルーマニア観光局ホームページ <http://www.romaniatabi.jp/>
 『世界の建築・街並ガイド5』エクスマレッジ

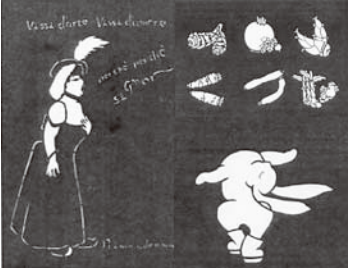
1993年にUIFA JAPONが設立されてから、15年目にはいりました。広報部会では、会員相互の理解を深めるため、そして対外的にUIFA JAPONを知っていただくために、「私の仕事」特集を企画しました。①現在取り組んでいること ②今後展開しようと思うこと ③これまでに取り組んだこと、という3点から、1つ選んで具体的に書いてくださいという依頼にたいして、44名の会員から原稿が届きました。その内容は、具体的な建築作品から、仕事の概要にいたるまで、多岐にわたっています。それぞれの原稿を「住まい」「地域・都市」「研究・教育」という大きな枠組みで分類し、紙面を構成しました。ご協力いただいた会員の皆様に感謝いたします。そして、この紙面を楽しみ、役立てていただければ幸いです。


My Work – UIFA Japon in 2007 Work, Activities and Lives

To mark the 15 years since UIFA Japon was established in 1993, as well as to promote communications and publicize our activities to the rest of the world, we have designed a showcase entitled My Work – UIFA Japon in 2007. Over 40 members have written briefly about their work, activities and lives. The articles were then categorized into women who work in residential design, urban design/community and education/research. We appreciate the efforts of our members and hope this is useful for our readers.(A.T.)


| | | |
|--|---|--|
| 武田 満す | Masu TAKEDA | 陶芸を楽しむ |
| Enjoy Pottery and Painting | | |
| <p>武田先生と陶芸作品の写真</p>  | <p>I was born in 1913, studied biology at Nihon Women's University, and then studied Home Economics at the University of Oregon on a Fulbright. The study of Home Economics didn't exist in Japan at the time, so my U.S. experience was helpful in establishing the Home Economics Department at Japan Women's University. After retirement, I helped establish the departments of Housing, Welfare, English Literature and Secretarial Studies at Kyoei University. From age 77 to 85, I traveled around the world, and now, at 94, I enjoy pottery and painting.</p> | <p>1913年生まれ。1981年日本女子大学(教授)を退官後、共栄短期大学の創設にかかわり、1990年に退官。 日本女子大入学時は、生物を専攻したが、20代後半、フルブライトで旅費、米国家政学会でスカラシップを受けて、オレゴン大学でハウジングを学ぶ。日本の家政学は衣食のみで家族関係や住居はない時代であった。当時、米国の家政学は、家庭管理や児童心理まで包括するもので、家庭管理は共同生活で家庭管理実習をするなどの住居管理(Home Management)であった。米国で学んだこの経験は、帰国後、現在の日本女子大の住居学科の創設に寄与することとなった。 共栄短大の創設では、住居、社会福祉、英文、秘書科などの分野を開設し中心を担う。 1976年イランの小都市Ramserで開催した4回目のUIFA国際大会では、日本のメンバーのリーダーとして活躍。教員生活退官後77歳から85歳までは、世界中を旅行、インテリアや風景を楽しむ。94歳の現在は、陶芸、絵画を趣味として、人生を美しく謳歌している。(渡辺聞き書き)</p> |
| 中原 暢子 | Nobuko NAKAHARA | 遊んで学ぶ |
| Learn with Pleasure | | |
| <p>茶室のある自邸風景</p>  | <p>I live in a house called Cho-an, with an authentic teahouse I designed. I've designed nearly 200 buildings, mostly houses. I worked for the Hayashi, Yamada, Nakahara Designers' Group, which we established in 1958 and closed in 2003. I was invited to teach at Tokyo Kasei Gakuin when the Department of Housing was established. I attended the first meeting of UIFA in Paris in 1963, and stayed in Paris for 9 months to work in architecture.</p> | <p>建築家として建築設計は200件ぐらい。自宅である「暢庵」(ちょうあん)は、1985年に自らのために設計した庵号で、本格的な庵と軒(東匠軒)を持つ。同じ敷地内の別棟に、頼りになる仲間、茶の師匠をも務める佐藤さん、和の建築の管理をしてくれる、彫り物師でもあり大工でもある酒場さんが共に住む。 1958年から45年間続けた「林・山田・中原設計同人」は、シェア式の共同事務所。3人の個性ある作家たちは、それぞれが個を大事にし、同人の長期維持を可能にした。1985年、東京家政学院大学の住居学科に「衣食」に「住」が加わった年から教員に招かれる。1963年パリで開かれたUIFA第1回国際会議への出席は船で一ヶ月かかった。その後9ヶ月ほど“遊んで学ぶ”をモットーにパリに滞在、設計や現場を経験した。UIFA JAPON創設時から2003年まで会長。(渡辺聞き書き)</p> |
| 小川 信子 | Nobuko OGAWA | 建物の保存と再生について考察 |
| Furthering the Cause of Architectural Preservation and Reuse | | |
| <p>ケアハウスの中庭からファルスタ居城を見る。(1891年建設)現在シニアハウスとして使用</p>  <p>FARSTA SLOTT (Gus-TAVSBERG) View from care house</p> | <p>In Dec. 2006, my book on the preservation and current revitalization of the town of Gustavsberg, entitled The History of a Swedish Pottery Town, was published by Domes Publishers. I recently researched and compiled a history of the preservation activities related to the Otsuka Women's Apartment House. As a member of the Board of Directors of the nonprofit Wrightian Architectural Archives Japan, I am helping find ways to preserve and promote the Japanese legacy of Frank Lloyd Wright.</p> | <p>現在関心を持って行っている活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) “スウェーデン陶器の町の歩み”を出版。グスタブスベリイの町の保存と再生現状を調査してまとめました。(2006年12月ドメス出版)町の名前にもなった陶器工場の創設者の居城はシニアハウスとして再生し、ケアハウスを増築して、共生できる町づくりをしています。 2) 同潤会大塚アパートメントハウス史と保存運動の経緯及び元居住者へのヒアリング等を記録に残すために記述作業を行っています。 3) “特定非営利活動法人ライト建築アーカイブス日本”の委員として、日本に現存するライトの作品、ライトに薫陶を受けた日本の建築家の作品の保存及び図面などを保管して公開できる方法を研究中です。 |


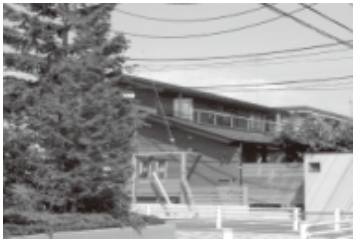

| | | |
|--|---|--|
| 宮崎 玲子 | Reiko MIYAZAKI | 世界の台所模型制作 |
| Worldwide Kitchen Miniatures | | |
|  | <p>It has been more than 30 years since I started taking time off from my structural design career to visit kitchens around the world. I have created miniatures of the kitchens I surveyed, which have crystallized the results of my research. There are still many areas I have not covered yet, such as Okinawa, Northern and Eastern Europe, South America and Africa. I would like to visit these regions and add more miniatures to my collection.</p> | <p>本来の仕事であった構造設計を放りだして、世界の住まいの覗き見を始めてから30年近く経ちました。その結果をまとめたものが、世界の台所ミニチュア模型です。ご覧頂いた方も多と思いますが、06年にはある企業の企画に伴って日本中15箇所も展示しました、ただ残念なことに1ヶ所が2日のみでしたので、皆様にお知らせする余裕もなく過ぎてしまいました。日本の沖縄、世界では北欧や東欧・アフリカ・南米など作りたい地域が数多く残っておりますので、いつか完成させたいと願っております。</p> |
| 柏原 雪子 | Yukiko KASHIWABARA | 働く女性と赤ちゃんの楽しい暮らし |
| An Enjoyable Life for Working Mothers and Babies | | |
|  | <p>Child-rearing conditions have changed gradually over time, but in the past few years there have been dramatic changes. I am working to pinpoint the most comfortable housing environment for infants, when the child is most dependent on her parents. I also want to find out how even working mothers can richly enjoy life with their babies. By observing infant activities, such as taking a bath, eating and going to the toilet, I seek to recommend hardware, such as lighting, to improve biorhythms. I created prototypes of quakeproof furniture for children from 0 to 10 years old. I have received requests to create these for the elderly, which is not too surprising when one considers that there are many similarities between babies and the elderly.</p> | <p>時代の変化の中で少しずつ変わってきた子育て事情も、このところ急激に変化しているようだ。いまだきの子育て住宅研究の中で、子供が親に最も依存度の高い乳児期に焦点を当てて、快適な住環境とは？を求めて研究中。仕事を持つ母親がタイトな時間の中で、いかに心豊に赤ちゃんと一緒に暮らしができるか。沐浴、食事、トイレなど一つ一つの行動をみなおし、実験、体験を通しておすすめのハードを提案。また、生体リズム(circadian rhythm)を整えるための暮らしの提案、照明提案。0歳から10歳位まで使える地震に備えてのユニット家具の試作は、意外にも介護中の親のためにとサイズを変更しての要望もあった。ケアする立場からみると、共通するところは多い。</p> |
| 大高 真紀子 | Makiko OHTAKA | 児童館 |
| Child Daycare Center Design | | |
| <p>最後の設計の仕事となった児童館内部の写真</p>  <p>My last design, a child daycare center.</p> | <p>I was working as an architect until a few years ago, when I became ill and had to discontinue working. After I recovered, I decided to go back to school. Now I'm writing a thesis on facilities and activities of children's halls and centers.</p> | <p>40代初めまでは、地方を飛びまわり、時には徹夜で設計や計画の仕事をする生活を送っていたが、病気になり、全てが一変した。身体を酷使しないで頭を使う仕事に切り替えなさいと、医師に言われ、悶々とした日々を送っていたが、数年前に再び大学に入り、論文に挑戦している。まだまだ初心者だが、人生の後半にもかかわらず、ご指導くださる方々に恵まれたことに感謝しつつ、勉学に励んでいる。最後に設計した建物「児童館」が現在の研究テーマである。</p> |
| 三上 紀子 | Noriko MIKAMI | こどもクリニックの環境デザイン |
| Environmental Design for Sick Children | | |
| <p>診察室</p>  <p>A consulting room.</p> | <p>The owner of this clinic requested that we create a healing environment for sick children and a space to support longterm child care. We considered the psychological processes of sick children and parents when designing each space, as well as functional zoning for consulting, and coordinated the interior materials and colors for the children's rooms. We hope that our design will help heal both minds and bodies, and promote the importance of design creating comfortable spaces.</p> | <p>当子どもクリニックの計画にあたっては、＜病中の子供のための診療空間と子育てを支援できるような場所を提供したい＞というコンセプトが求められた。ゾーニングにおいては診察のしやすさに加えて、患者である子どもの気持ちと付き添いの親の心理的作用を考慮した。特に、前回の診療所の計画を通して「居心地のよい空間が人に作用する力」を認識し、子ども部屋を連想させるインテリア・コーディネートを行った。ここでの空間を体験することにより、親子が心身共に少しでも癒され、また健康はもちろん住まいを含めた日常の空間とその大切さへ関心を抱いてもらうこともデザインの目的であると考えている。</p> |

| | | |
|---|---|---|
| 佐藤 久美子 | Kumiko SATO | 夢は直営工事 |
| My Dream Came True | | |
| イナパウアーの白ウサギ (2006年のモチーフ)  | When I decided to build a new house, I wanted to manage the project from beginning to end myself. This had been my dream since I started my career as an architect. I was able to see the project through, and now I am enjoying my life and my hobbies — Japanese indigo and yuzen dyeing — in my dream house. | 3年前、自宅を新築するにあたり、自分の仕事の集大成として直営工事をした。一般的に分業化されている設計、管理、施工を一人で行うのだ。それは建築に携わった時からの夢だった。建築看板は建築主こそ夫と私の連名だったがけれど、主事以外設計者、施工者、現場管理者に自分の名前を連ねた時は誇らしかった。各業者さんと実行予算を決め地鎮祭のための神主の手配から、竹取、レッカー車の手配などやることは無限にあった。内部足場のかけ払いには息子達と共に親子四人で行い、余計なお金をかけないようできる限りのことをした。引っ越しもしかり。ピアノだけ業者に頼みコトコト運び最後に残った大物の冷蔵庫は、やってきた解体屋さんにひとつ走りしてもらった。順調に進み新年は新しい家だと2003年の年末に戻ってきた。工事が終わっていたわけではない。完了検査は年明けだし、水道だって仮設のまま。そこは直営工事、何の不都合もないのだから一番大変だったのは建築指導課。前例がないからと最初から最後までもめた。今はほぼりタイアーし、一階に設けた事務所見アトリエで趣味の藍染めや友禅染、その染めた布で袋物を製作を楽しんでいる。 |


| | | |
|--|---|---|
| 川嶋 幸江 | Yukie KAWASHIMA | 軽井沢に住んで分かったこと |
| Conclusions from Living in Karuizawa | | |
|  | I built a house in Karuizawa at 1,200 meters above sea level in 1989. After 18 years of living there, these are my conclusions: 1. The level of the road and entrance should be the same. 2. The foundation of the house should be more than 1 meter high. 3. Avoid sloped roofs above the entrance. 4. Avoid a north entrance and include a vestibule. 5. Place windows on the east and west. 6. Place the kitchen in the south or west. 7. Avoid wooden exteriors due to woodpeckers. 8. Prepare storage for firewood. 9. For seniors, it is better to live in a flat, convenient area. | 私は1989年に軽井沢の千が滝、標高約1200m弱の南傾斜地に家建てた。その結果の結論。 1. 楽な荷物の出し入れには道路面と入り口の高低差があまりないこと。2. 湿気を避けるため、基礎は1m以上に。3. 屋根は積雪がすべり落ちるため、出入り口方向へ傾斜させない。4. 出入り口は北側を避け、風除室を設ける。5. 夏の風は東西に流れるため、窓は必ず東西にもとる。6. 台所は湿気対策のため、太陽の当たる南・西に配置。7. 外装が木製素材の場合、きつつきが穴をあけ、スズメバチが巣をつくり、刺される危険と駆除が大変になる。8. 薪ストーブを使う場合、室内の薪置き場を確保し、運び入れる薪の動線と煙突掃除のことを考える。9. 高齢者は平場で、病院、買い物に歩いて行ける場所が良い。 |

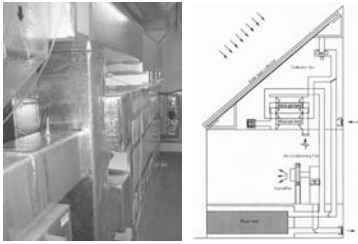
| | | |
|---|--|--|
| 寺尾 信子 | Nobuko TERAO | UIA(国際建築家連合)2011 東京大会開催準備 |
| Planning the 2011 UIA Congress in Tokyo | | |
| UIA2011 東京大会のプレイベントとなる JIA 建築家大会 2007 東京の準備が並行して行われ 今秋 10/17 ~ 20 の開催に取組んでいる  | I am involved in planning the UIA (International Union of Architects) Global Congress in Tokyo in 2011. The UIA theme is Design 2050, with the main venue being the Tokyo International Forum and the number of target participants being 10,000. The Japan Institute of Architects (JIA) is the representative body of the UIA JOB (Japan Organizing Board), which is composed of various smaller planning groups. We hope to pinpoint program ideas and increase cooperation through city walking tours of about 10 people each. We expect cooperation from all UIA members! | 私は今 UIA (国際建築家連合) 2011 東京大会の開催準備に携わっています。JIA (日本建築家協会) は日本組織委員会 (JOB) 代表および開催受託者となっています。JOB は諮問評議会、実行委員会、活動部会で構成されています。活動部会の中の学術部会に参加しています。4月に「Design 2050」という大会テーマ案を作成し現在は、プログラムの中身の検討に入っています。主会場は東京国際フォーラム、目標参加者数は1万人です。http://www.jia.or.jp/uia2011/2007/uia-tokyo-gaiyou.pdf (大会概要) 小さな10名単位くらいのまち歩きプログラムでは、多くの方のアイデアと協力を募る予定です。UIFA 会員各位の協力も期待しています。 |


| | | |
|--|--|---|
| 小島 久實 | Kumi KOJIMA | 暮らしの伝承 |
| Preserving History | | |
| 曾祖母からの贈り物  | I'm involved in a family project to make a video record of our lives for five generations, from my great-grandmother onward. I am also involved in the Dojunkai-Edogawa Apartments historical project. I used to live in the apartments. | 日本の生活文化の継承を目指して曾祖母から5代、暮らしの中に使われてきた物と暮らし方を映像(ビデオ)に作り伝えていく。 永年はぐくまれて来た暮らしのコミュニティを受け継ぎながらの集合住宅の建て替え、同潤会江戸川アパート再建の20年間への元住人としての協力、活動。 |


| | | |
|---|--|--|
| <p>谷村 留都</p> | <p>Rutsu TANIMURA</p> | <p>中庭を囲む2世帯住宅</p> |
| <p>Two-Family Courtyard House</p> | | |
| <p>南側外観</p>  <p>South View</p> | <p>My firm has been designing houses that exhibit a presence and quality of life that is not found in traditional styles or modern design, which ignore their surrounding townscapes. This house has relatively generous conditions of site and frontage, therefore successfully stands without being overbearing to its neighbors.</p> <p>The area has been urbanizing and because it was to house two families, it was necessary to consider privacy both inside and outside. The courtyard functions as a subtle boundary while providing an open character to this house.</p> | <p>伝統的なスタイルでもなく、周囲を拒絶したような現代デザインでもなく、ささやかなこだわりをもつ、普通の人々の住宅を作り続けています。</p> <p>間口も敷地もの広い恵まれた条件のこの住宅は周囲に圧迫感を与えない、さらりとした印象を与えています。都市化の進んだ周辺状況と、娘の家族と一緒に暮らすという設定が、外部に対してだけでなく内部においてもプライバシーのあり方を配慮する必要がありました。中庭を作るという選択肢がそれらの解決に役立ち、家族間のゆるやかな境界として機能しています。</p> |
| <p>東 由美子</p> | <p>Yumiko HIGASHI</p> | <p>人の一生をみつめて</p> |
| <p>Looking at How People Live</p> | | |
| <p>知的障害者のグループホーム</p>  | <p>I am interested in how people live at home, in society and in various cultures, from infants to the elderly. I have recently become involved in projects for the handicapped or elderly. I am designing group houses, and working to improve their conditions. I am concerned with how society can support them and how they can live without losing dignity.</p> | <p>私は人が生まれてから死ぬまで、いかに生きるかに関心があります。家庭で、社会で、様々な文化の中で。赤ちゃんからお年寄りまで。最近では社会的弱者、お年寄りや障害者のためのグループハウスの設計を手がけることが多くなりました。一人で生きられなくなった時、どんな住まいが良いのか。どんな風に共に生活したら良いのか。そして近隣や社会とのかかわりはどのようであったらよいのか。その中で個の尊厳をどう保つかを考えながら、設計しています。</p> |
| <p>板東 みさ子</p> | <p>Misako BANDO</p> | <p>住宅の設計を通して考えること</p> |
| <p>Thoughts on Home Design</p> | | |
|  | <p>Many of my clients want to build new homes reflecting a new stage of life. Most of them are retired seniors with grown children who hope for a better life. I spend a lot of time talking with them about quality of life. We consider the results of aging, but focus on how to live a life worth living in. I am designing a private space for the client, but I think a house is also a social architectural experience.</p> | <p>住宅街の中の一戸建ての住宅。そこに住み慣れた施主が、これからの人生を豊かに過ごすために住まいを建て替えたいと思う。その動機が私達と施主の出会いをもたらしている。多くは子育てを終え定年を迎え、という年代で、漸く自分の生き方、理念に沿った住空間の実現に、主眼を置けるような時を得る。高齢社会となった日本の現状の反映と思うが、彼らと共に必要だと感じるのは生活の質である。私は、多くの時間をかけて住まい手と様々な会話と意見交換を積み重ね設計をしていく。身体的な高齢対策をさりげなく計画に織り込むことは当然だが、全体として流れるテーマを、それぞれの生き方を表現できるような日常の場に見つける。個人住宅とはいえ社会の中に位置づけられる建築は、単に個人の嗜好ではない普遍性が必要だという指標も持ち続けていきたい。</p> |
| <p>正宗 量子</p> | <p>Kazuko MASAMUNE</p> | <p>これからしたい私の仕事</p> |
| <p>My Professional Goals</p> | | |
| <p>ファミリールームは、地域のコミュニティスペースにもなるように設計</p>  | <p>I have been focusing on designing better working spaces for women who work at home. I believe this has something to do with the meaning of life for women, since it mirrors our times. After a long, feudalistic period, we have entered finally realized gender equality and now, the nature of home design itself is getting a lot of attention because of Japan's low birthrate. I would like my designs to enhance the management of domestic affairs. Also, I would like to emphasize the importance of space for children with mental problems. In addition, I would like to explore the architecture of Frank Lloyd Wright in terms of gender, since he has influenced my design techniques.</p> | <p>私は、住宅における女性の労働圏の向上を目指しワークスペースの設計に反映させてきた。何故なら、それは又時代を映す鏡と考えられるし、社会の中で女性の生き甲斐の意味を問う事に通じるからだ。長い封建時代を経、日本は男女協働参画社会となり、今少子化から脱却の為住まいの設計の在方が問われている。台所を中心とする食空間、衣や住の維持管理、育児、教育、趣味の拡大等を通し私が設計してきた数々の作品例をベースに日々繰り返して行われる家事と家政の運営に役立つように纏めたいと思っている。又、精神の危機に遭遇している子供にとり、こどものスペースの大切さを問いたいし、私の設計技法に影響を受けたライトの設計につきジェンダーの視点で探りたいと思っている。</p> |

| | | |
|---|---|--|
| 栗山 楊子 | Yoko KURIYAMA | 地域に密着した住宅リフォーム |
| Housing Renovations | | |
| <p>ある住宅のウッドデッキのサンルーム</p>  <p>A Sun Room by Wood Deck</p> | <p>Since leaving TRIAD Construction and Design Office, where I mainly designed low-rise condominiums, I have been working in the housing renovation unit of a gas utility affiliate. We redesign dwellings in the utility's service area with the dual goals of enhancing residents' quality of life and promoting the use of environmentally friendly and safe gas.</p> <p>Japan's population is shrinking and the number of nuclear families is increasing. Amid these trends, the middle-aged and elderly desire better living environments that take into account their physical needs as they age and where they can lead independent, quality lives.</p> | <p>TRIAD 建築設計事務所（主に低層集合住宅の設計を担当）を退職した後、都市ガスを供給する企業の系列会社で、環境にやさしい、安全な都市ガスの利用促進を目的としながら、その地域に生活する居住者のための住宅リフォームの仕事をしています。</p> <p>少子高齢化・核家族化社会の流れの中、中高年の方々は、自身の高齢化を念頭におき、生涯自立した生活を送ることを目的に、より良い住環境を構築したいと望んでいます。</p> <p>将来を見据え、台所・浴室等の設備の充実を主目的に、家族の生活の積み重ねに合わせた住まいの改善、また、快適で安全に暮らせ、メンテナンスしやすい新しい空間の出現を提案しながら設計・施工管理を行っています。</p> |
| 小野 全子 | Masako ONO | 家族の声が聞こえる家 |
| A Home Where Voices are Heard | | |
| <p>家族の声が聞こえる居間</p>  <p>Living room where family's voices can be heard.</p> | <p>Communications are indispensable to healthy family life, but people seem too busy to talk with other family members, and spend most of their time alone in their rooms. I want to design homes that promote communications. In this design, adults in the living room will hear the voices of children on the second floor — as well as birds singing in the courtyard. I want to design residences that enrich the mind.</p> | <p>生活に欠かせない家族とのコミュニケーション。今日のように多忙化している現代人にとって、家に帰っても家族と話をしないで、個室にはいつてしまう人は多いのではないのでしょうか。家族の気配を感じることでできる間取りについて、どのようにしたらよいかを意識して設計していきたいと思っています。</p> <p>今回の設計では、2階の廊下を通る子供たちの声が、居間でくつろぐ大人たちに聞こえるように。また、中庭からは、鳥の声のさえずりも。心を豊かにするような住まいを設計していきたいと思っています。</p> |
| 佐藤 由紀子 | Yukiko SATO | 坂倉準三設計：旧飯箸邸の移築再生計画 |
| Leaving a Heritage for the Next Generation | | |
| <p>旧飯箸邸 リビング内観写真</p>  <p>Living room in the Iihashi House.</p> | <p>I primarily design buildings, but last year was different. The Iihashi House, designed by Junzo Sakakura after he received the Grand Prix at the 1941 Paris Expo, was threatened with destruction. I once worked for Sakakura's office, so we gathered and planned a symposium to search for some way to save the home, in which he had succeeding in creating a harmony of European and Japanese influences. For 2 months, we filmed and measured the building. Finally, we helped convince a famous French restaurant to open a branch in the house. I think it is an important mission for us to pass on a significant architectural heritage to the next generation.</p> | <p>坂倉準三がパリ万博で金賞を受賞後、日本で初めて実現した木造住宅が昨年、66年前当時の姿でみつかった。前川国男の自邸にも大きな影響を与えたこの住宅（飯箸邸）は、大工職人の高い技術に支えられ、西洋と日本が見事に融合した建築史上重要な作品である。しかし、発見と同時に解体の危機に瀕していた。</p> <p>私は事務所のOGとして、この住宅を後世に残すべく、OBに呼びかけ、保存活動を始めた。絶望的な状況であったが、緊急シンポジウムを開催し、移築先を模索するなかで、最終的に軽井沢のレストランとして再生の道が開けた。正月返上で約2ヶ月間、実測調査、解体測調査を敢行し、映像記録も含め膨大な記録を残した。</p> <p>先人が情熱とエネルギーをかけた建築を後世に残すことは新しい建築をつくるのと同じくらい、建築家の重要な使命ではないかと考えている。</p> |
| 中野 晶子 | Akiko NAKANO | 都捻時の家（ガラス瓦と床暖で古民家再生） |
| Old Japanese Roof Shelters a New-Style Home Office | | |
| <p>アプローチから見える円形のGBは、LED照明</p>  <p>A glass block is illuminated by LED.</p> | <p>One century has passed under this tile roof on a rural farmhouse. The owner's son pushed his elderly mother to revamp it into a modern home with his personal office. Engineers had to raise the entire house 1 meter to create a new reinforced concrete foundation. But the strong wood beams were preserved. The entrance was shifted from south to north, hot water floor heating was added and glass roof tiles created bright, warm spaces.</p> | <p>一世紀前に建てられた家に、生まれた時から住んでいるという豪農の一人娘である施主が、新しい経済の仕組みを熟知した息子の助言を得て、たたずまいを継承しつつ、住まい方を一新し、その長男の執務空間を取り込む古民家再生を、依頼してきた。当初の実測から、計画、設計、実施、管理、造園までを、伝統建築の技術を熟知した棟梁に支えられて、4年をかけ完了することができた。</p> <p>1メートル揚げ家をして、地中梁を含む基礎を新設し、今後80年絶えらるる柱に付け替え、うねる梁を温存して、玄関を南から北に移設し、5尺8寸の建具内法を、現代人向けに7尺へと選択変更していく経過は、蔵を温存し、古い納屋を廃棄し、駐車のための別棟を新設する事への決断へと繋がっていった。</p> |

| | | |
|---|---|---|
| 福井 綾子 | Ayako FUKUI | 木造住宅の耐震診断と改修設計 |
| Seismic Retrofitting of a Wooden House | | |
| <p>補強金物</p>  <p>A quakeproof wall.</p> | <p>I recently conducted a seismic retrofit based on the results of a quakeproof diagnosis. To comply with the owner's request, I also designed barrier-free construction. I applied the goal of continual use and enhanced lifestyle, focusing on the bathroom. With good balance, ease of use and quakeproof walls, the reinforcement improved the seismic rating from 0.58 to 1.33.</p> | <p>私は仕事で木造住宅の改修工事のための設計をしています。</p> <p>耐震診断の結果をもとに、建築主の希望に合わせてバリアフリー工事の設計監理をします。</p> <p>建物を持続的に使う知恵を生かしています。生活様式の変化にあわせ、浴室やトイレの使いやすさも追求します。耐震の壁をバランスよく配置し、生活のしやすさも合わせて設計した結果、構造の評点が補強工事前 0.58 から 1.33 に上がりました。</p> |

| | | |
|--|---|--|
| 稲垣 弘子 | Hiroko INAGAKI | 空気集熱式ソーラー空調システムの研究開発 |
| Research and Development of New Solar Energy | | |
| <p>実験装置</p> <p>システム図</p>  <p>Photo and schematic of an experimental Solar Cooling System using a rock bed.</p> | <p>Using solar energy for heating and hot water is considered practical because of easy maintenance and no danger of freezing or corrosion. But collected heat is not utilized in the summer, thus a desiccant cooling system should be developed. Such a system requires two silica gel beds, one for regeneration of the desiccant and another for cooling processes. The target of this project is to create a solar air conditioning system by adding a desiccant unit to an existing solar system.</p> | <p>空気集熱式太陽熱利用暖房・給湯システムは凍結や材料腐食の問題もなく、取り扱い保守が容易で実用性の高いシステムであるが、集熱温風は冬期にしか利用できない。</p> <p>夏期の集熱温風でデシカントの再生を行うデシカント冷房システムを開発するとシステムの利用率を向上させることができる。</p> <p>このデシカント冷房システムは二つのシリカゲルベッドを再生と吸着冷房工程に切り替え使用する。</p> <p>そこで、既存の太陽熱利用暖房・給湯システムに二つのシリカゲルベッドをコンパクトな一体のデシカントユニットとして付加することで、冷房もできるシステムとすることを目標として研究開発を行っている。</p> |

| | | |
|--|---|--|
| 寺本 晰子 | Sekiko TERAMOTO | 空間ワークショップ |
| Children's Workshops on Space Design | | |
| <p>小学校での空間ワークショップ作品 (Photo Takako S)</p>  <p>Examples from a recent workshop.</p> | <p>While engaging in the design of housing and office interiors, I've also been working as an arbitrator at the Tokyo District Court on various architectural disputes. In terms of social activities, I've been participating in workshops for children that teach them about town design. We have been encouraging them to get involved and raising their awareness about the concept of a town. I will continue developing many programs with them through those space building workshops using materials at hand.</p> | <p>日頃は、住宅設計や役員室等のインテリアのリニューアル設計をしています。変わった役割に専門家調停員（建築士）があります。東京地裁の専門部で、裁判官、調停員（弁護士）の3者による建築関係事件の調停をしています。民間の訴訟で調停に附された事件等を扱いますが、長く職能団体に続ける建築相談の延長線上にあります。社会活動では、子供たちを対象にした「建築家と街を作ろうー空間ワークショップ」を小学校等で展開しています。90cmと180cmの小割り材とジャンボゴム輪を使った空間構成です。砦、3重の塔、おばーちゃんの家・・・、図工科の造形ワークショップを空間から街への関心まで育てるプログラムへの開発を順次試みています。</p> |

| | | |
|---|---|---|
| 小池（米田） 和子 | Kazuko Yoneta KOIKE | 人にやさしい住まいをつくるためのガイド |
| Barrier-Free Home Guidebook | | |
|  | <p>In 2006, I took charge of creating a guidebook on barrier-free residence design. Japan's rapidly aging society led Edogawa Ward, Tokyo, to publish the guide to educate its citizens. The ward also published a textbook for specialists such as care managers and contractors, on increasing the comfort of the elderly in their own homes. The guidebook consists of three chapters, dealing with the concepts and necessity of the barrier-free home, and case studies from the ward that illuminate the concepts. There is also information about consulting on and retrofitting houses. I would like to keep up the effort to help increase daily comforts for the elderly.</p> | <p>この冊子は、2006年度に生活構造研究所が一員として、江戸川区から受託した仕事を担当したものである。江戸川区は、早くから高齢者のために移動の確保や排泄の支援などを行ってきた。今回は、急速な高齢社会に向け、高齢者が在宅で安心して生活できるように、「人にやさしい住まいをつくるために」に区民への啓発や、ケアマネジャー・工事業者等の研修テキストとして冊子を作成した。内容は、知識編として「やさしい住まいはどのような住まいか」「やさしい住まいの必要性」、事例編として「毎日の生活と住まいを空間ごとに説明」し、事例は「江戸川区内の事例」を参考にしている。また「情報編」では、相談先や改修する際の制度等の紹介をしている。今後も快適な在宅生活の継続に向けた工夫に取り組んでいきたい。</p> |


| | | |
|---|---|---|
| 山田 由紀子 | Yukiko YAMADA | 脳波による環境評価と住宅設計 |
| Environmental Evaluations with EEG | | |
| <p>ハワイでの国際学会後の懇親会で</p>  | <p>I am in charge of environmental engineering for architecture at Meiji University, and am conducting research on sound and visual environments using a method combining psychology and physiology. I recently began developing an evaluation method using an electroencephalogram (EEG).</p> <p>I have also designed many residences, and I am always considering such environmental aspects as sunshine, thermal insulation, sound insulation and daylight planning.</p> | <p>私は明治大学理工学部建築学科で、建築環境工学を担当しております。環境工学には熱、空気、音、光など色々の分野がありますが、特に音環境と視環境について、心理学や生理学の手法を用いて研究しています。特に最近では音環境の評価に脳波を用いることを試みています。日本人と西欧人の比較なども行い、興味のある結果が出そうな感触になってきました。</p> <p>さらにこれまでに多くの住宅を設計してきました。設計に際しては、住みやすさとともに日照、断熱、換気、遮音、採光などの住宅内の環境に特に配慮するよう努力してきました。大学を退職したあとは、これらの考えを生かした住宅、集合住宅の設計に力を入れていきたいと考えております。</p> |
| 田中 美恵子 | Mieko TANAKA | 豊かな近隣住環境は、社会の潤滑基準 |
| An Enriched Living Environment Enriches Society | | |
| <p>水郷柳川の堀割</p>  | <p>1. I'm working to help preserve and diffuse traditional culture and the idea of sustainable communities nationwide, through activities with the Japan-France Scenic Sites Committee. Today, cultural life in rural areas is being destroyed. It would be best to revive the villages and towns built by our ancestors with tremendous ideas and schemes, and to revive them as vital living areas with many households in a collective society.</p> <p>2. It is considered that the restoration of these traditional communities would enrich lives, thus enhancing morals and helping to eradicate crime. The fundamental theory of "construction" should be based on humanity. I'm confident that those who spend their childhood in a warm, friendly neighborhood will contribute to the community and the country through their daily lives.</p> | <p>1 「日仏景観会議」で取り組む地域文化の伝承とコミュニティ社会の復活・環境保全を、日本全土に拡げたい。</p> <p>今、地方の生活文化が破壊されつつある。本来、先人の知恵と工夫の結晶である地方の街並みを活気のある住まいの場に蘇らせ、多世帯が助け合い「共に暮らすクリエイティブな地域社会」を築きたいと願っている。</p> <p>2. 素朴な近隣社会の復活は、徳育の基礎を暗黙のうちに創り上げると思う</p> <p>社会悪の根源を絶つ一つの大きい力は、心豊かな近隣の温かい「目」と情緒ある地方文化に親しめる「絆」。「建設倫理」という硬いイメージの根底には、「人への思いやり」が第一。厳しく自己を律するものは、幼年期の原風景の豊かさにあるのではないかと信じ「静かで温かい素朴な住環境」を復活させたいと願い取り組んでいる。</p> |
| 石川 弥栄子 | Yaeko ISHIKAWA | 福祉サービスと連携した高齢者の住まい |
| Subsidized Housing for Senior Citizens | | |
| <p>コモンスペースから高齢者住宅を見る</p>  <p>Silver Housing and common spaces.</p> | <p>I worked for the Tokyo Metropolitan Government for many years, mainly promoting housing policy. About 20 years ago, the rapid rise of urban redevelopment projects deprived the elderly of their apartments, which they owned. So the government started the Silver Housing Project, which provided subsidized apartments for the elderly. I was a key member of the project and worked with the greater metropolitan area governments. I now teach Creating Subsidized Cities and Residential Planning as a visiting professor.</p> | <p>長く東京都庁に勤務し、主に住宅施策の推進に携わってきた。約20年前、急激な都市更新が老朽アパートに住む高齢者の居住を脅かし、大きな社会問題になった。高齢者の居住の安定と福祉サービスの連携を目指して、「シルバーハウジング・プロジェクト事業」が創設され、安否の確認、緊急時の対応等を行う生活援助員を配置した高齢者住宅の建設が始まった。担当者となり、東京都や各区市町村の「高齢者住宅計画」を策定、福祉施策を連動させて、各地域に、このプロジェクトの建設をすすめ、入居後の実態調査等も行った。その後も、「高齢者が住みなれた地域に住み続ける安心・安全な住まい」をテーマに、高齢者居住と生活支援サービス等の調査研究をつづけている。現在は大学に勤務し、「福祉のまちづくり論」「住宅計画特論」等を教えている。</p> |
| 田中 厚子 | Atsuko TANAKA | 「日米・ジェンダー」をテーマに住宅研究 |
| Cross-Cultural Influences and Gender in Housing | | |
| <p>セーラムの松木邸 (1894)</p>  <p>Matsuki House in Salem (1894)</p> | <p>When I was living and studying in the U.S. in the 1980s, I became interested in cross-cultural influences on architecture. Since then, I've been conducting research on Japan-U.S. housing design exchanges and gender in architecture. My main papers have been: "Japonism in the U.S.," "Kameki Tsuchiura and the International Style," "Japanese Influences on American Houses," "Japanese Modern Living in the 1950's," "Female Architects in Japan," and my latest, "Three Japanese Houses Built in the U.S. around 1900." My primary concern is what we've forgotten or lost in the rapid process of modernization.</p> | <p>日米の住宅の影響関係に関心をもった30代から、近代住宅史を中心に調査・研究を続けています。「アメリカのジャポニズム」、「土浦亀城と国際様式」、「カリフォルニアの日本的な住宅」、「日本のモダン・リビング」、「女性建築家」などをテーマにしてきました。昨年の研究「1900年前後にアメリカに建設された3つの日本住宅」（住宅総合研究財団研究論文集No.33）では、セーラム、ニューヨーク郊外、ロサンゼルス郊外にある3軒のジャポニズム住宅を調査しました。失われていくものや忘れられたもの、重視されなかったものに注目し、日本の住まいと住環境がより良くなるような活動をしていきたいと思っております。</p> |

| | | |
|--|--|---|
| 井出 幸子 | Sachiko IDE | 中心市街地に住み続けるための集合住宅計画 |
| Serviced Residential Complex in the City Center | | |
| A市の複合施設  Residential complex of City A | The aim of the company I work for, RIA Corp., is to provide the latest residential environment planning so that people can live healthy, peaceful, energetic lives in the center of the city. We recently completed two projects, City S and City A, combining housing with medical care, social services and commercial interests. Building on that experience, we are working with another firm to plan a full-service senior housing complex with restaurant facilities in City H. I want to enable residents to continue their current lives and relationships, as we create a newly consolidated senior life stage. | 私は㈱R I Aに所属し、地方の中心市街地で、活力のある街で健康で安心して生活できる住環境をめざし、法定再開発の手法等を用い、住環境計画を進めて来ている。最近竣工したS市とA市の2つのプロジェクトは、集合住宅に医療・福祉・商業施設を併設した複合施設。街の賑わいの中で安心して暮らし続けられる計画である。そして今、長年親交のあった事業主が、H市で、ホテル経営の経験を生かしフロント機能の充実した高齢者住宅・飲食施設を計画したいと希望している。私はその土地で働き居住してきた人々が、その地の人間関係の中で、就業継続をし、また、新たに整備されたシニアライフステージのための住環境へ移行するための手伝いをして行きたいと思っている。 |
| 吉田 あこ | Clara Ako YOSHIDA | 生涯ひとつの作品 |
| One Masterpiece in My Life | | |
| 東京オリンピック駒沢体育館と駒沢公園の中央制御塔の眺望  View of Komazawa Gymnasium and Central Control Tower. | The Komazawa Stadium, designed by Ashihara Architects for the 1964 Tokyo Olympics, received a JIA special prize in 2003. I did the structural design on the building. My boss, Yoshinobu Ashihara, wanted to express the ideal of Japanese beauty from the Nara Period, so I designed a structure with an octagonal roof similar to that on the famous Horyuji Temple in Nara, using 4HP-modified shells. I also designed the Central Control Tower in Komazawa Park to resemble the top part of a temple tower. Japanese athletes won five gold medals the Olympics. In 1991, we retrofitted the stadium to assure that as the building would remain alive in the 21st c. | 東京オリンピック駒沢体育館が2003年のJIA賞を得た。築後25年以上で21世紀にも意味のある建物への新賞の第1回である。設計は芦原義信設計研究所、この構造デザインを私が在職中に先生の意を汲んで作成した。所長は日本の伝統美、特に奈良寺院の美の表出に執念を燃やしており、私がこの構造デザインを4枚の変形HPシェル造形で、8角形の夢殿（法隆寺）を表出し得た時、大変喜ばれデザインコンセプトを決定した。こうして、駒沢公園の中央制御塔も九輪（五重の塔の尖塔部）を髣髴させた。1964年、東京オリンピックでは、この建物内で5個の金メダルを日本が獲得した。1991年、機能拡充の修復工事に呼ばれ、新要求の機能全部をこのシェル翼下に内蔵させ、21世紀にも生きる建物に仕上げた。 |
| 北本 美江子 | Mieko KITAMOTO | 亀の歩みで竣工した再開発ビルと長年の人のつながりから生まれた本 |
| Compilation of Essays and Revitalized Building | | |
| 赤坂ガーデンシティ  Akasaka Garden City | The redevelopment of Akasaka Garden City started 20 years ago when I worked at Sekisui House Ltd. I proposed the concept of the redevelopment to the advisory committee that I organized. After that, I left the company, but my colleagues finally completed Akasaka Garden City last January, after much meandering. I composed the primary framework of a book that would present diverse opinions on the issue by experts in various concerns. The result is this compilation of essays written by 25 members of the Urban Problems Conference, which was founded 30 years ago. | 赤坂ガーデンシティは私が20年前、積水ハウス㈱にいたときに取り掛かった再開発ビルです。私は当初の開発構想段階で、有識者による委員会を設け、調査報告書作成への道筋をつけました。その後、私は退社しましたが、当時の若い人たちが紆余曲折を経て、昨年1月に完成させてくれました。 一方、エッセイ集『都市は誰のものか』（清文社）は、30年近く続いた都市問題会議という集まりの、人のつながりから生まれた本です。「都市」という括りの中で、さまざまな専門や主張を持つ人たちが書くだろうことを構成し、集まった原稿で仕上げました。私はたたき台を起案する係でした。 共に時の風雪に耐えたとと言えるといいですが、ただのめぐり合せかもしれません。 |
| 松川 淳子 | Junko MATSUKAWA | 生活構造研究所の28年 |
| My Company's 28-Year History | | |
| 再活用を検討している民家の実測調査  The Survey of Masanori's House for Re-use. | It has been 28 years since I established my firm, the Laboratory for Innovators of Quality of Life. I research the ideal community for children, women, the elderly and those living in certain areas. I participate in the investment, design and programming of improvements for residential environments nationwide. Since the Kobe Earthquake in 1995, I have learned much about emergency protection and reconstruction. I am now deeply involved in the revitalization of Hossue, one of the villages still suffering from the Niigata Earthquakes in 2004. I hope to help restore the beauty of the view and the traditional houses. | 子どもや女性や高齢者をはじめ、地域で生活する人を中心にすえて、「コミュニティのあり方」を考えながら、調査・研究を重ね、社会のしくみも含めて快適な住まいや環境を考えようと、生活構造研究所を設立してから28年が経過した。私の仕事の原点であり、変わらない大切なテーマである。この視点をベースに、全国各地の調査、構想、計画作りにかかわっている。1995年の阪神淡路大震災以降、立て続けに起きた自然災害で被災した地域の復興過程から学ぶことは大きく、交流・支援を続け、「防災」や「復興」に関連する仕事に携わる機会も多くなった。今は中越地震の被災地のひとつ、法末集落（Hossue）の再生に夢中。UIFA JAPONやJSURPとして美しい景観や歳月を経た民家の佇まいを集落の再生につなげていきたいと思っている。 |

| | | |
|---|--|--|
| 柳澤 佐和子 | Sawako YANAGISAWA | 人にやさしい環境デザイン |
| Environmental Design for Happier Lives | | 私は人の生活に深く関わる住宅・福祉施設・病院などを数多く手がけてきた。住宅では「働きやすく家族の絆が強まる住宅」「高齢化に向けて自立を支える同居住宅」などを設計のテーマとしてきた。ホスピスを設計した際には「死と建築」というテーマのもと、死と直面した人が身の回りの空間や環境をどのように感じるかについて考えながら設計を進めた。また精神病院の設計の際には、入院患者の心の病により注目し、患者を心理的に支えるような家庭的な建築環境を実現した。今の時代、特に高齢者、障害者、病人、子供、女性など社会的に弱い立場の人達に、安らぎや生きる喜び・目標を与えるような建築環境が求められている。私はこういって社会の要求に根ざし、今、建築環境に何が求められているのか、また何を提供すべきかを考えながら、人にやさしい環境デザインに取り組んでいきたい。 |
| <p>地域に根ざした精神病院</p>  <p>Mental Hospital</p> | <p>I have designed a variety of buildings, from houses to welfare facilities and hospitals. My residential designs focus on work ease and family connections, while my apartments for the elderly focus on supporting independent lifestyles. When I designed a hospice, I imagined how people facing to death would think about the surrounding space and environment. When I designed a mental hospital, I focused on creating a homelike environment to boost the patients' morale. Today, architectural environments should provide peace and joy, especially for those who are weaker, such as the elderly, handicapped, the ill, children and women. I hope to contribute to improved health and happiness.</p> | |
| 森田 美紀 | Miki MORITA | 言葉のないものに言葉を貸し与える |
| Communication Beyond Words | | 私はランドスケープと建築設計の両方の仕事を手掛けている。 |
| <p>公立刈田総合病院リハビリガーデン (宮城県白石市)</p>  <p>Katta Public Hospital Rehabilitation Garden in Miyagi.</p> | <p>I'm working as both a building designer and a landscape architect. When I design a building, I can find the best solutions by listening to the client's requests or a coworker's ideas. But when I work on a landscape, I have no one to listen to because the landscape has no voice. I recently designed a building for the mentally handicapped, and we had to find a way to understand their requests without words — by feeling, reading and entering their speechless world.</p> <p>Through this experience, I realized that landscape architecture is the same as the architect lends expression to the landscape itself. I now believe that good communications between landscapes and human beings are the most important facet of creating an impressive landscape.</p> | <p>建築はクライアントや協働する人々の声を聞き、計画を進める。しかし、ランドスケープではほとんど声が聞こえてこない。</p> <p>知的障害者の施設の設計をしていた時のことだった。重度の障害者はほとんど何もしゃべることが出来ない。私達は言葉のない彼らの希望を読み解くために言葉を貸し与えることが必要だった。独自の世界を持っている彼等のための仕事をしているうちに、ランドスケープの仕事もまた風景というしゃべることの出来ない対象に言葉を貸し与える仕事であると気付いた。</p> <p>風景と人間のコミュニケーションが風景を作り上げるのだと考えるようになった。</p> |
| 須永 倅子 | Yoshiko SUNAGA | 行事も重要な環境デザインの要素 |
| Events Can Enhance Spatial Designs | | 都心のビルのアトリウム空間を、緑を使ってデザインした。上層部のホテルの持つ高級感を前面に出し、ブランドイメージを高める事が要求された。 |
| <p>イルミネーションで球形の行灯が</p>  <p>Illuminated globes in the atrium.</p> | <p>I recently designed an atrium space for a high-rise building that has a prestigious hotel on its upper floors. The project required that I enhance the brand image, so I placed several globe-like planters in the atrium. During the July Tanabata Festival, bamboo globes were brought in so that visitors could write and leave their messages on them. Events like these are very important in urban life.</p> | <p>しつらいの見直し、パネル類のデザイン統一、受付カウンター配置の検討などを行い、イベント提案なども行った。フロントヤードの緑と、バックヤードの公園を連続させるように植栽を配置。硬質で無機質な雰囲気と和らげるよう、プランターそのものを緑の球体とした。</p> <p>季節感が薄れている都会生活の中ではイベントも重要。七夕祭りには竹の球を増やし、来館者に願い事を書いた四角い短冊を下げてもらった。自分達で球体を形作っていくという、参加型のイベントである。</p> |
| 石川 和代 | Kazuyo ISHIKAWA | 地方自治と権限の狭間で私権と公益のバランスを取る |
| Between Town Management and Authority, Private Rights and Public Interests | | 地方公務員とは、職場により分野や手法は違うが、全て広義のまちづくりに携わる職業である。住民の生活の場を提供したり、コミュニティを支える仕組みを支援したり、都市空間の整備や誘導を行ったり、ソフトとハードの両面からまちづくりに関わっている。 |
| | <p>I am a city office worker who has served in a variety of sections related to city management. I'm currently working in the building permit section. Our mission is to provide our citizens with safe buildings and urban spaces. I inspect building plans and provide administrative guidance in the hope that every building will not only become an asset for its owner but will also be safe and a pleasant addition to the existing cityscape. I believe that buildings should work for the common good.</p> | <p>現在、私が携わっている建築行政では、住民に安全な建物、ひいては都市空間を提供するのが役目である。一つ一つの建築が、建築主の良好な財産であるだけでなく、安心して安全に使えること、周辺の建物とともに街の景色を形づくることを常に意識しつつ、確認審査と行政指導を行っている。建築物は私有財産ではあるが、周辺に与える影響の大きさから公益性を備えたものとなって欲しいと願っている。</p> |

| | | |
|---|---|---|
| 北島 三和子 | Miwako KITASHIMA | 人と人との会話を生み出すスペース・環境づくり —ここしばらくプロジェクトとして— |
| Creating an Environment that Fosters Conversation | | I } 天王洲アイル：ティワイハーバーブルワリー —水面から感じる都会人のための環境として II } 三浦市小網代湾・TYタイドパーク—水 海 森 潮を感じる環境の構想として III } 奥沢・TYキッチンスタジオ—コミュニケー ションツールのキッチン [食育] 環境として |
| <p>天王洲運河沿いのティワイハーバーブルワリー</p>  | <p>My design for the TY Harbor Brewery at Tennozu Isle creates a waterside environment for city dwellers. TY TidePark at Koajiro Bay, Miura City, provides water, sea, forest and tides. The TY Kitchen Studio in Okusawa presents the kitchen as a communication tool and environment for “food culture.”</p> <p>The important factors of my work are: environment, discovery of the charm of the location, the human movement line, ease of maintenance, sanitation, aesthetic harmony, cultural accumulation, eco and qualitative economy effect, sustainable elements and the contribution as a landscape.</p> | <p>私の作業の重要ファクター</p> <p>① 人のための環境 ⑥ 美的調和 ② 立地の魅力発見 ⑦ 文化的蓄積 ③ 動静線システム ⑧ E C O・質的経済効果 ④ メンテナンス ⑨ 持続可能要素 ⑤ サニテーション ⑩ 風景としての寄与</p> |
| 高橋 満季 | Maki TAKAHASHI | 地域のコンテンツとし |
| News from Atami | | 現在、2つの組織に足を置いて活動している。 |
| <p>NPO エイミック会員が考案した入浴プログラム「熱海養生法」の様子。</p>  <p>AMIC members practice at an Atami spa</p> | <p>I recently founded a company with an athletic trainer to support personal conditioning and training. I am also the director of the nonprofit group AMIC in the famous Atami spa town. We developed an original spa bathing method and have been disseminating it for the past 3 years.</p> | <p>ひとつは昨年8月にアスレティックトレーナーであるパートナーと立ち上げた健康づくりをサポートする会社(株式会社リボンプロジェクト)である。ひとりひとりの状態にあったオーダーメイドの運動メニューの提供と指導を行っている。</p> <p>いまひとつは熱海を温泉と医療によって活性化したいと考えているNPO法人エイミック会員としての活動である。会員の考案した温泉入浴プログラムの普及を目指し、年数回のツアーを実施して今年3年目を迎えた。</p> |
| 古賀 良子 | Ryoko KOGA | 東急線沿線価値向上 |
| Boosting the Value of Communities Along Tokyu Railway Lines | | 田園調布や多摩田園都市などの街づくりとともに成長してきた東急電鉄では、今後も住んでもらい、街に来てもらうことで、持続的な街と鉄道の発展を目指している。そのような方針のなかで、田園都市線沿線と東横線東京エリアの沿線拠点開発の検討を行っている。 |
| | <p>Many projects are being investigated in order to achieve sustainable growth in suburban communities located along Tokyo's railway lines, as well as in public transportation. One of these is redevelopment of an elevated railroad between Shibuya and Daikanyama. When the Toyoko Line and the Tokyo Metro No.13 Line are seamlessly connected, we want to redevelop the existing construction site to achieve a flow that enables people to walk between these two stations by building an artificial foundation over the new railroad. Through these projects, the communities located along Tokyu Railway lines will be much happier.</p> | <p>例えば、東横線と地下鉄13号線との相互直通運転によって地下化される渋谷一代官山間の高架跡地を利用して、どのような人の流れを産み出せるか。鉄道用地の上に人工地盤をかけて開発することで、街にどのような可能性が生まれるか。東急沿線のなかで各々の駅・街の個性を尊重し、地元の人々と協力して開発を進め、沿線価値を向上させ、より多くの人に愛される街を目指して努力したい。</p> |
| 白井 正子 | Masako SHIRAI | 災害を乗り越えた神社に存続する芸能の研究 |
| How Shinto Shrines Reflect Our Nation's History | | 日本の古神社には創建を伝える由緒書から罹災の記録が窺える。火災による焼失、風水害による浸水で流失、地震による倒壊の後には再建を繰り返している。木造 柱、梁の架構材の補修跡からも経年変化の状況を伝えているのは興味深い。木造建築の美は四季の移り変りの明確な風土の中で木材に用いた接手、仕口の納まり には建築空間を創り出す棟梁の腕の技術と対面して美を発見する。 |
| <p>約200年前の神社で神楽を舞う</p>  <p>Kagura Performance in the Old Wooden shrine</p> | <p>Throughout history, constant natural disasters and frequent fires have beset beautiful wooden structures like the Shinto shrines of old Japan. Research can reveal their histories through various physical transformations over the ages. From repairs and other physical alterations to the structure, for example, one can see the changing of seasons and the level of original craftsmanship.</p> <p>Old shrines hosted stage performances to mark changes of season and other religious days. Culture is passed down from generation to generation through these beautiful buildings, and we can find many aspects that have changed, as well as long-enduring ones.</p> | <p>古神社の年中行事にはその地域に伝承されている民俗芸能が祭日の神事として披露されている。地域の豊かな文化が時代の変遷を経て変化しながらも継承されている。時を越えて変わるもの、変わらないものは何かを考えさせる。</p> |

| | | |
|--|--|---|
| 御船 杏里 | Kyori MIFUNE | 「東京理科大学 DDS 研究センター」の設計 |
| Center for Pharmaceutical Research | | |
| <p>コンクリート打放しの外観</p>  <p style="text-align: center;">Cast-in-place concrete façade.</p> | <p>In conjunction with the 125th anniversary of the founding of Tokyo University of Science, this high-tech pharmaceutical lab was built at the verdant suburban campus. Designed to advance the development of pharmaceutical technology in connection with Drug Delivery Systems (DDS), it was supported and subsidized by the Japanese government. With a simple exposed cast-in-place concrete facade and wide openings, the natural light-filled building houses administrative offices on the first floor, and its labs on the second through fourth floors. A small gravel garden, with vermilion plastered walls, was created under the stairs in the entrance hall. A refreshing glance toward this small garden should provide relief from stress for the researchers.</p> | <p>東京理科大学の創立 125 周年記念事業として、緑豊かな郊外のキャンパスに、薬学における先端研究拠点となる建物を設計した。外観は、シンプルなコンクリート打放しのファサード。1 階は管理部門等、2～4 階は研究室で、外光があふれ、ライトグレーを基調とした落ち着いた空間とした。設計開始から竣工までほぼ 1 年、ユースポイントを打合せ、エンドユーザーの意向に配慮した設計とした。ピンポイントで患部に投薬を行う研究 (DDS) は、文部科学省の補助金事業で、5 年間の研究で成果を出すことを目指す。エントランスホールには、研究室との対比で、玉砂利敷きの床・朱色の塗壁の「小庭」をつくり、長時間に及ぶ研究の息抜きとなればと考えた。</p> |
| 安武 敦子 | Atsuko Yasutake | 日本の大学教育 |
| Academic Education in Japan | | |
| <p>学生と民家の修復</p>  <p style="text-align: center;">Rehabilitating a traditional house with my students.</p> | <p>Japan's declining birthrate has led to a major drop in student numbers. In Japan, we don't look on students as independent individuals. We treat them like high school students. I'm pessimistic over Japan's future. I teach urban planning, architectural design and CAD usage. I hope students in our course graduate with new viewpoints and new ways of thinking about urban and architectural design. I think researchers should spend time on social activities. I participate in many such pursuits.</p> | <p>少子化の現在、私の大学では、学生を自立した個人と考えるようになっていく。いかに面倒をみるかという方向にシフトし、自己責任という言葉が聞くことが少なくなった。日本の将来を憂うのは私だけであろうか。</p> <p>私は大学で、ゼミの他、都市計画や設計、cad の教育を担当している。都市や建築に対する見方や考え方を身につけて欲しいと思っている。大学業務以外でも大学従事者(研究者)は社会活動に時間を割くべきだと考えており、研究者らと連携して団地運営のサポートや、UIFA のメンバーと被災地の支援、大学の教員・学生と地元小学校の活動支援等を楽しんでいる。</p> |
| 山本 佳世子 | Kayoko YAMAMOTO | 社会情報システム学の視点から環境科学へのチャレンジ |
| Challenges to Environmental Science from the Viewpoint of Social Informatics | | |
| <p>シカゴ・第 10 回世界湖沼会議にて (2003 年 6 月)</p>  <p style="text-align: center;">The 10th World Lakes Conference in Chicago (June, 2003)</p> | <p>Environmental problems have attracted attention all over the world, and we must adopt various countermeasures in our everyday lives. It is indispensable that environmental partnerships should be formed between citizens, NPOs, administrators, businesses and scientists. However, The ubiquity of the internet is now allowing us to use information and communication technology (ICT) and geographic information systems (GIS) to display information on electronic maps. This enables us to perform bidirectional information interchanges and information sharing among various people and groups. Therefore, I am investigating environmental science from the viewpoint of social informatics.</p> | <p>世界レベルで環境問題が注目されるようになり、日常生活レベルでも様々な対応策が採られるようになりました。また、市民、NPO、行政、企業、研究者・専門家による環境パートナーシップが不可欠となっています。一方、近年では、“いつでも”、“どこでも”、“誰でも”、“何とでも”つながることができるユビキタスネットワーク社会が実現されつつあります。このような社会では、情報通信技術 (ICT) と地理情報システム (GIS) を利用し、電子地図上に様々な情報を表示し、双方向性の情報交流を行うことと、多様な主体間で情報を共有することができるようになりました。このように、私は、社会情報システム学の視点から、環境科学の研究に取り組んでいます。</p> |
| 宮本 伸子 | Nobuko MIYAMOTO | ものづくり大学の開学と運営 |
| Foundation and Administration of the Monotsukuri Institute Of Technologists | | |
| <p>正課授業における実習 ストラクチャーコース連絡橋建設 (P C 造)</p>  <p style="text-align: center;">Construction of bridge between two campus buildings (part of curriculum).</p> | <p>The Monotsukuri Institute of Technologists is a new style institute aimed at turning out expert technologists, since there are decreasing numbers of technologists in Japan. I was part of the project from the very beginning, and in 1997, started laying the foundations of the institute, drawing up the budgets, buying land for the campus, building the facilities, planning the curriculum and hiring the professors.</p> <p>In 2001, when the institute opened, I worked for academic affairs, then in 2003, began managing students affairs, internships and job searches of undergraduate students.</p> | <p>私が在職しているものづくり大学は、1990 年代に日本経済の成長神話が崩壊する一方で、産業の人材が不足する時代を背景に、日本の重要な産業基盤であるものづくりを担う若者を育成する大学として設立された。</p> <p>私はテイク・ナイン計画設計研究所にいた頃から、この大学づくりの仕事にかかわり、1997 年から準備財団に入って、用地取得、施設建設、大学の企画・計画、教員募集、組織構成、経営計画などの諸準備に奔走した。</p> <p>2001 年 4 月に開学した後は、教務課で講義や実習の諸準備・支援や入試運営に携わり、2003 年からは学生生活と就職およびインターンシップの支援を推進して、有為な卒業生をものづくりの世界に送り出すことが私の仕事の中心である。</p> |

| | | |
|---|--|---|
| 渡辺 喜代美 | Kiyomi WATANABE | 住まい・まちづくり |
| Living and Local Revitalization | | |
| <p>熱心に議論する住民参加 まちづくりワークショップ 2007</p>  <p>2007.04 workshop (June, 2003) "Living and Local Revitalization"</p> | <p>After almost 40 years serving in the Tokyo Metropolitan Government's (TMG) Bureau of Housing, I retired and started working at the Town Creation Center, an affiliate of TMG, as an editor-in-chief of the bimonthly Machinami (Beautiful Townscapes) magazine. I also contributed to several nonprofit organizations, including the Kyojuken (Lodgings Study Group), Collective Housing Corporation, Urban Housing Workshop.</p> | <p>東京都庁時代、社会住宅のセーフティネットである公共住宅の研究課題は多岐であったが、私が主幹した内、特記したい仕事は、都市型居住のあり方、高齢社会と住まいのあり方、集合住宅の景観形成手法、住宅史などである。特に1990年代初頭、来る高齢社会予測のもとに「高齢対応型住宅のガイドブック」「同指針」初版作成は、都政刊行物のベスト3の評価を受けた上、高齢社会を予測したものとして、全国に波及していった。</p> <p>2000年代東京都防災建築まちづくりセンターで主幹した、機関紙「街並み」や住まい・まちづくりに関するセミナー、地域のまちづくりワークショップなど、地域に視点を当てた仕事では、多くの人と出会い、困難ながらも楽しく、地場によって発想することの大切さを再認識した。</p> <p>こうした私の仕事は、創設時から活動した「都市居住研究会」「住まい研究会」「ALCC」「NPO CHC」などの研究会やNPO活動などの、もう一つの仕事と有機的にリンクすることで活性化し深まり、今も住まい・まちづくりの活動に生きている。</p> |

■ 第40回 海外交流の会報告

「子どもにとっての住まい・まちづくりドイツ・ドレスデンの取り組みから」講師 定行まり子

小野全子

日本女子大学家政学部住居学科教授定行まり子氏は、2005年4月から2006年3月まで、旧東ドイツのドレスデンに滞在され、保育を中心に子供の環境について調査研究を実施。ドレスデンの保育政策や保育環境、さらに、子育てと仕事の両立について報告されました。

旧東ドイツと旧西ドイツでは、保育施設の整備状況が違っており、その根底には、社会主義の旧東ドイツでは、男女就労が当然のことであったのに対して、旧西ドイツでは、3歳までは、家庭で母親が子供の世話をするのが一般的であったことによるもののお話でした。そのため、旧東ドイツであったドレスデンでは、保育施設の充実を力を注いでおり、その施設整備の中で特筆すべき点を紹介されました。

統一後、一時、保育所需要が減じ、保育所が閉鎖されていましたが、現在のドレスデンでは、出生数が上昇を始めており、それに伴って保育所の整備が必要となりました。



40th International Exchange Lecture: Housing for Children in Dresden, Germany

Masako ONO

A lecture by Prof. Mariko Sadayuki of Nippon Women's University was held on February 17, 2007, at Nippon Women's University in Tokyo. She reported on research she conducted into the childcare environment and administration during her stay in Dresden from April 2005 to March 2006. In general, mothers cared for children up to the age of 3 at home in the former West Germany, whereas childcare facilities were provided in the former East Germany, where Socialism prevailed and both parents generally worked outside the home. Therefore, Dresden, which was once a part of East Germany, had a well-developed childcare system and Prof. Sadayuki mentioned many notable points.



保育のプログラムにおいては、子供の主体性を重んじたプランを立て、地域によっては、キッチンをつくり、朝食の支度を可能にし、肥満が問題となっている地域では、それに適応したプランをたてるなど、地域の状態をみながら取り組みをおこなっているとのこと。

ドイツ自体、各州の独立性を重んじて、地域にあった子育て環境づくりに心を砕いているため、その国の方向性が地域にまで行き届いている様子でした。青少年の実情としては、若者の失業率が多く、若者の自立に関して、街づくりの一環として取り組んでおり、そのひとつに居場所づくりがありました。その建物の建設プロセスにおいては、青少年の参加を重視しているという、興味深い施策でした。

家庭と仕事の両立のために、子育て支援策のひとつとして設けられた2001年1月1日に成立したジョブ・シェアリング制度は、家族を大事にし、仕事を続けるために、女性にとって、有効な制度となりました。

最後に、ドレスデンの街並みの美しさとそれを継承していかようとしている人々の思いを知ることができました。子供のための環境について、改めて考える機会となりました。(2007年2月17日開催)

After German unification, the demand for daycare facilities was palliated at one time, and many daycare centers were closed down. But in today's Dresden, the birthrate has begun to rise and the maintenance of the daycare system is thus necessary. Childcare programs always respect the independence of the child, but other characteristics vary depending on the local situation. In some areas, for example, kitchens are needed to prepare breakfast for the children and certain dietary plans are available. In Germany, the independent nature of each region is obvious and it is reflected in the local childcare environment.

Youth unemployment is high in Germany. As a part of the nation's citizen-based town planning, they build youth centers. It is interesting to know that the participation of the young is important in the construction process of the building.

The job-sharing system established on January 1, 2001 in order to support women who are raising children, seems to be effective in recognizing the coexistence of work and housework, as well as enabling women to continue pursuing careers.

I appreciated hearing from Prof. Sadayuki about the thoughts of the people who have created beautiful row houses and a healthy environment for children in Dresden.(A.T.)

UIFA JAPON 事務局

〒102-0083

東京都千代田区麹町2-5-4

第2押田ビル ㈱生活構造研究所内

Phone: 03-5275-7861 Fax: 03-5275-7866

E-mail: uifa@LIQL.CO.JP

発行 2007年7月25日

THE SECRETARIAT OF UIFA JAPON

c/o LABORATORY FOR INNOVATORS
OF QUANTITY OF LIFE
DAINI-OSHIDA BLDG.
2-5-4, KOUJIMACHI, CHIYODA-KU
TOKYO, JAPAN 〒102-0083PHONE :+81-3-5275-7861
FAX :+81-3-5275-7866

● 川崎裕子さんへ千の風になって〜

小川 信子

2月15日のお手紙で、“これからは家族との時間を大切に毎日楽しくすごそうと思っています。”という前向きな内容でしたので、21日の訃報には驚くばかりでした。川崎裕子さんは、UIFA JAPON では、総務担当理事をして、物静かな語り口でしたが、的確な意見を出して、会の発展に尽力して下さいました。

印象深いのは『蒔かれた「西洋の種」』として出版された研究内容についてです。(本はNEWS LETTER No. 51で紹介。生活学会；今和次郎賞受賞) 明治大正期に日本人の生活が、洋風化した様子を婦人宣教師が果たした役割に焦点を当てたことであり、さらに、近江八幡に現存する住宅(ウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計)の保存と再生についても語られています。建築の保存と再生は現在の課題となっている問題ですが、早くも着目しておられました。

まだ活躍して頂きたかったと残念ですが、良い家庭人としても、濃縮、充実した豊かな人生を歩まれたと思います。3月25日のお別れ会では、“千の風になって”の美しいメロディーでお別れしました。

■ 会員の本『都市は誰のものか』

“都市のことを考えてきた人たちの次世代へのメッセージ”と帯(こしまき)に書かれたこの本は、“都市の主体者を問う”と副題をつけている。“地域独特の文化的で知性のあるまちづくり”への思いを次世代に伝えたい24名のコラボレーションである。UIFA JAPONのメンバー北本美江子は21世紀へのメッセージの中で“都市計画の文化的文脈をたどる”として共同体再考論を掲載しています。「戦後の知識人たちは専門性のタコボにいと指摘した丸山眞男ではないが、現代は少なくとも数の上で一桁以上は知識人が増えているはずだし、得られる情報量にも格段の差があるのだからお上に任せきりではいけないのだ」として身近な共同体から自治体、国家、国際機関にいたるまで、どのように共同体の役割、共同体の相互関係を形成するかについて考えるべきだと思ふと論じている。

個人と社会の関係性が不確定な、不安な社会状況や地球環境の変化の中で、「私の仕事」や暮らしをとりまく環境を再考するに役立つ良書である。ご一読と議論の場づくりを望む。(渡辺)



共著：北本美江子(清文社)

■ 第5回法末復興祈願茶会「あぜ道茶会」から

渡邊喜代美

2004年10月23日中越地震で大規模斜面崩壊・土砂ダム・ライフライン崩壊など巨大被害を受け集落は、様々な支援や集落の人々の絶大な努力で復興に向かっていきます。長岡森市長さんのお話では、2008年の正月には、すべての家族が仮設住宅から移動でき正月を自宅で迎えられる様子です。UIFA JAPONが長岡市の法末地域に「復興祈願茶会」という交流の場づくりの一つとして支援活動に入って、すでに5回となりました。

お茶会に参加した集落の方々の表情は、穏やかで、茶会を手伝ってくれる方々も増え、お茶の受け方も自然になって、会話が弾みます。茶会のテント張り、席に飾る花、周辺に配置する植木鉢などもあつという間に集まって整備できます。会場の「やまびこ」は、地域運営の宿泊施設でもあります。その食事は山菜づくしを基本に絶品です。作り手は集落の女性たちで、実に工夫の凝らされたしゃれた盛り付けで、いつも感動します。また、茶会をささえるUIFAメンバーの「着物」という小道具の楽しさ、面白さも大変なものです。お母上や自分の若いころの古典的で美しい着物が再活躍して好評です。UIFA JAPONの茶会は、コミュニケーションの場、交流の場づくりとして成功しています。

最近、法末のブナ林は、地域の方々で再整備され、すばらしい散策路となりました。ぜひ訪問ください。法末を紹介する美しいハガキも創りました。詳細は見守りチームへ。



■ 編集後記

It's always my pleasure to help edit this bilingual version of the UIFA Japon newsletter. Sharing information on your work and passions with your colleagues overseas will make UIFA stronger and better! (Karen Severns) 会員みんなの協力を得て作った今号。会報がコミュニケーションツールになって欲しい。(須永) 建築基準法が改正されました。現場は、まだまだ手探りで仕事をしています。(石川) 建築学会業績賞受賞の友人の仕事を訪ねた。縦割り行政の間をつなぎ、ありがたい形を見つけ直す行為の結実をみた。喜ばしきかな建築家であることそして女性であること。(井出) 特集号の編集に当たって会員の多様な活動を再見し女性の社会進出の重要性を再認識(渡邊) 多岐に渡る「私の仕事」44原稿に感じる私達の英知と生命力が、今後も広くささやかな社会貢献に繋がることを期待します。(中野) 今年もキャレンさんのご協力によって、英文併記号ができました。(田中)

■ 役員会報告

第11回(2月17日):総会日程を6/23(土)に決定。記念講演会講師を菊竹清訓氏に決定。総務委員会、事業委員会の2007年度概算予算を了承。ソランジュ会長からの手紙の紹介。会費未納者への督促状発送報告。ニューズレター英文併記号は71号の予定を世界大会持参のため72号に変更する。また、72号で会員の紹介をするためのアンケート配布予定。

第12回(3月14日):ニューズレターの次号は71+72合併号として増頁、7月25日発行予定で了承。第40回海外交流の会報告。報告書は事業委員会に保存。会費未納者への対応策について検討。ルーマニア大会について日程等の資料が届く。大会参加準備の段取りを確認。

第1回(4月24日):ルーマニア大会参加申込状況の報告。2007年度予算の検討。ニューズレター71+72合併号での会員紹介頁の執筆依頼書と原稿フォーマットに

ついて検討。総会準備の検討。第41回海外交流の会の講師について検討

第2回(5月23日):入退会の動向について報告。総会に向けて予算、議案書、名簿、記念講演、段取り等について検討。ルーマニア大会の参加案内、通訳の手配等について検討。第41回海外交流の会、日時と会場決定。第42回海外交流の会の方向性検討。ニューズレター71+72合併号の「私の仕事」特集の原稿フォーマットについて話し合われた。災害復興見守りチーム、法末「あぜ道茶会」のお知らせ、総会会場で法末の絵葉書販売を了承。

第3回(6月21日):故川崎裕子理事の逝去に伴い山本佳世子氏が理事に就任。ニューズレター71+72合併号編集の進捗状況報告。第41回海外交流の会の準備状況報告。第42回海外交流の会の講師と日程決定、案内時期について検討。災害復興見守りチーム、能登半島地震被災地への視察費用捻出のため総会での募金箱設置を了承。「あぜ道茶会」の報告。総会準備について最終確認。